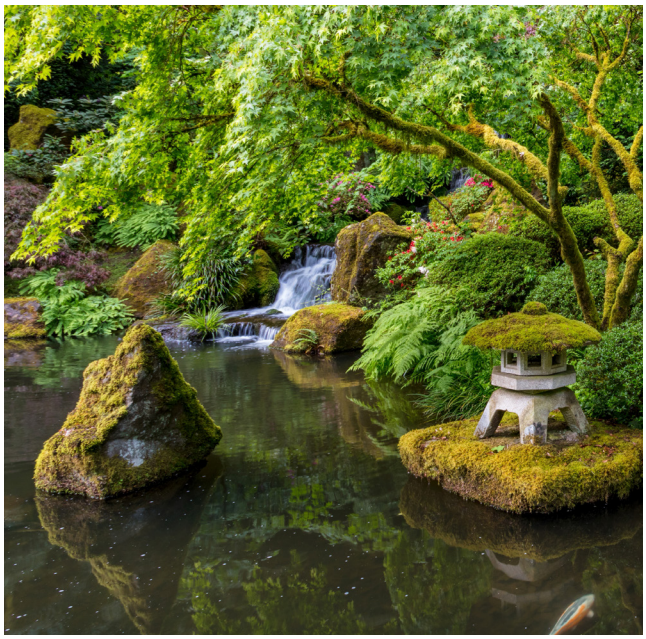
ジャパン インスティテュート

ポートランド日本庭園
世界に向けた文化発信への取り組み



PORTLAND JAPANESE GARDEN

JAPAN INSTITUTE

平和への希求

This present moment
that lives on
to become
long ago

ゲーリー・スナイダー

ポートランド日本庭園は、第二次世界大戦が残した日米間の傷跡を癒やすため、地元の有志によって1963年に創設されました。ポートランド市民の日本文化への理解を深めることを目的に、日本の美の象徴として日本庭園が作庭されたのです。それ以来庭園は、日本庭園文化の紹介にとどまらず、より深淵で本質的なものを人々にもたらしてきました。

日本庭園のミュージアムと称されることも多い弊園は、来園される全ての人に実体験と学びをもたらす「生きた教室」とも言え、それは庭園に足を踏み入れた瞬間から感じ取ることができます。心臓の鼓動が静まるにつれ脈打つ音は緩やかになり、心が開放されると同時に五感が研ぎ澄まされるのを感じることができるでしょう。それは、日本庭園が人間の内面性に作用することを示唆します。

人々は庭園がもたらす心の平穏という効果にいち早く気付き、そこから、庭園という場を介して内面的な安寧がもたらされ、さらには戦争によって憎しみを抱えた人々の間の友好と和平が構築できるという希望が生まれました。創設から約60年が経ち、今ではポートランド日本庭園の名は人々の知るところとなり、弊園は真正な日本庭園の管理と質の高いプログラムの提供や各種活動を通して、北米における最大の日本文化発信機関の一つへと成長いたしました。今や地元コミュニティーだけでなく、全米および世界中から、庭園の美しさと日本文化へ触れるために多くの人々に来園いただけるようになりました。

現在、年間50万人近い人々がポートランド日本庭園を訪れます。来園者は口々に「平穏」「静寂」「やすらぎ」に触れたという感想を残して帰路につかれます。中には「自身の中にある日本のルーツの発見」「アジアの文化が称賛される安全な場所」「海の向こうの外国に過ぎなかった日本を理解する旅路の端緒」などと来園体験を表現される方もいます。

ポートランド日本庭園は、個々人の平和の体験が、ひいては世界恒久平和へとつながるのではという人々の願いから生まれました。多様化するコミュニティー間での分断や暴力行為が広がりつつある今こそ、私どものような組織の存在意義が、今まで以上に問われていると考えます。

さらには、弊園が発展していく過程において、私どものミッションは優れた日本庭園を維持管理していくだけでなく、より友好的で持続可能な世界を実現するために文化外交を牽引することであると認識するようになりました。

ジャパン インスティテュート

Inspiring Harmony and Peace

このたび私どもは、ポートランド日本庭園のミッションである「Inspiring Harmony & Peace」という、調和と平和を促す弊園の活動をさらに推し進めるべく、ジャパン インスティテュート（以下、インスティテュート）を設立します。自然に囲まれた場所にて、知的かつ創造的な環境を創出する文化・芸術・自然に関わるプログラムを通して、世界の人々の自己理解、ひいては相互理解を促します。

インスティテュートは、弊園のプログラムを世界へ発信し国際的なパートナーシップを拡大すること、そして世界恒久平和や日本文化の美学や自然へのつながりを、体験や対話を通じて多様な人々と共有する場を引き続き提供すること目的とします。幅広い年齢層を対象とした斬新な国際プログラムやグローバルコラボレーションの促進、また体験教育を特徴とするインスティテュートは、以下の3つのセンターで成り立ちます。

1. **Global Center for Culture and Art**
   略称：文化芸術センター
2. **International Exchange Forum**
   略称：国際フォーラム
3. **International Japanese Garden Training Center**
   略称：トレーニングセンター

Global Center
for Culture and Art
略称：文化芸術センター
THE JAPAN
INSTITUTE
International
Japanese Garden
Training Center
略称：トレーニングセンター
International
Exchange Forum
略称：国際フォーラム

文化芸術センター

The Global Center for Culture and Art（以下、文化芸術センター）では、日本固有の伝統文化や芸術の視点から人間と自然との相互関係について探求します。日本語能力や事前知識がなくとも習得できるよう、ビジュアルアーツやパフォーミングアーツに加え、書道、茶道、漆芸、盆栽、歌舞伎、華道といった伝統文化を直に体感できるプログラムを提供します。

美と静寂あふれるポートランド日本庭園内にて、あるいは遠隔地から日本の芸術や伝統文化に先入観なく接し語り合うことで、参加者の思考と好奇心をかき立てます。より多くの人が参加できる包括的なアプローチを併せ持つプログラムは、未知の世界や創造への理解を深める可能性を引き出し、また人々の対話を促進します。

新たに見聞きすることや挑戦に対し心を開き、未知の創造物への理解を受け入れ、そこから生まれる人々との対話を育むことが、センターの目的です。

ポートランド日本庭園および文化芸術センターは、日本の心と真髄を体験する入口となるでしょう。日本のアーティストや専門家を紹介するだけでなく、日本の影響が色濃い場所や、あるいは日本の文化芸術との好対照となるような場所からも多様な人材を招聘します。

ポートランド日本庭園は、庭園を訪れるすべての人に多くの体験的な学びを提供する「生きた教室」です

学びの内容は多岐にわたり、それは庭園に足を踏み入れた瞬間から感じ取ることができるでしょう

文化芸術センターでは、現代アーティストや多様な分野の作家を主な対象とし、アーティスト同士あるいは世界各地の人々との対話の機会を創出します。国際プログラムのさらなる拡充に伴うバーチャルプログラムの導入は、これらのアーティスト間の創造や対話を促進すると同時に革新的な協働の機会を作り、長期的な友好関係を築くことでしょう。

文化芸術センターのプログラムの中には、展覧会や巡回展、アーティスト・イン・レジデンスに加え、和食文化シリーズ、五節句、茶道、華道、盆栽、書道、俳句などのクラスやデモンストレーション、工芸ワークショップ、パフォーミングアーツなど、さまざまなジャンルのメディアを使った新しいアート作品のコミッションワークがあります。また日本国外においてなかなか体験する機会がない流鏑馬や相撲を紹介する計画もあります。無数のアーティストや専門家の活躍をサポートしながら、多様な日本文化と芸術形態を世界へ発信します。

2015年、東日本大震災で流出、オレゴン沿岸に漂着した鳥居の一部をポートランド日本庭園が主体となり
日本へ返還。横浜での式典にてご挨拶をされるキャロライン・ケネディー駐日米国全権大使（当時）

国際フォーラム

The International Exchange Forum（以下、国際フォーラム）では、職人の手仕事への深い理解や自然への畏敬、内面的な安寧と同時に他者との調和の希求といった、世界的に普遍な日本文化の「心」とその理念や精神性を探求するコミュニティーを形成するとともに、その共通の志を持つ個人や組織をつなぎ、対話を促進します。国際フォーラムに世界各地から集い共に関係性を築いた参加者たちは、新たな発想やアイデアを共に模索しながら理論と実践を推し進め、互いを尊重しつつ日本庭園と庭園文化の理想について対話と協働を重ねます。

「ポートランド日本庭園は、自然とのつながり・教育普及・相互理解のプラットフォームとなる、世界でも屈指の日本関連団体です」

キャロライン・ケネディー　元駐日米国全権大使

カンファレンスとシンポジウム

インスティテュートは世界恒久平和の構築、文化芸術の体験、人と人とのつながりを認識し対話を促進するカンファレンスやシンポジウムを、業種や組織や国を超えて定期的に開催します。そこで交わされる対話を発端に、参加者間に強固な関係と相互理解が生まれ、さらなる対話や将来的なコラボレーションが生まれることを目指します。

開催予定カンファレンス

- **American Public Gardens Association Conference**
  全米公立庭園協会年次総会・カンファレンス
  2022年6月20〜24日 於 ポートランド
  Crafting Gardens for a Changing World
  (仮訳「時代の変遷と進化する庭園」)
  約20ヵ国、600余庭園機関、約1200名の参加者が集う

- **Peacemaking at the Intersection of Culture, Art & Nature (仮訳「三位一体のクリエイティブへ庭屋一如と文化芸術が紡ぐ創造的平和構築の座」)**
  2022年9月14〜21日 於 広島・長崎・東京
  Symbols of Peace
  二次世界大戦終戦75周年を記念して、平和祈念石燈籠を広島、長崎、東京へ寄贈。ピース・シンポジウムを東京にて開催（2020年より2022年へ延期）

- **Peacemaking at the Intersection of Culture, Art & Nature (仮訳「三位一体のクリエイティブへ庭屋一如と文化芸術が紡ぐ創造的平和構築の座」)**
  2022年12月5〜8日 於 ロンドン
  協賛・後援：在英米国大使館、在英日本国大使館、ロンドン市、ロンドン・キュー王立植物園、その他文化組織・団体および基金など

国際文化機関とのコラボレーション・プログラム

国や文化を超えたグローバルな関係性は、国際社会における多様なコミュニティーにとって不可欠な対話や協働の機会を可能にします。

インスティテュートの発足に先駆けて、ポートランド日本庭園では以下のプロジェクトを含むさまざまな連携事業を行ってきました。

- **妙心寺 退蔵院（京都）、公益財団法人 国際文化会館（東京）、けいはんな記念公園（京都）の各機関と日本庭園文化の発展に資する交流協力提携を締結。同姉妹機関関係をモデルとし、新たな相互協力提携先・姉妹協定関係を開拓予定**

55周年記念祝賀会でご挨拶をされる杉山晋輔 アメリカ合衆国駐箚特命全権大使（当時）

クリスティーヌ・ラガルド 国際通貨基金専務理事（当時）がポートランド日本庭園を訪問

（前頁続き）

- 日本国政府が支援するジャパン・ソサエティーとの共同プログラム「Living Traditions」ウェビナーシリーズでは、数百年続く日本の伝統が今日の大衆文化にもたらしている影響を検証
- 文部科学省（日本）、日本庭園協会、北米日本庭園協会、その他の組織・団体と協力し、日本庭園芸術というアートフォームをユネスコ無形文化遺産登録に推薦するプログラム（2016～2022年）

2022年以降も各種カンファレンスを開催し、多くの庭園や日本文化機関とグローバルレベルでの連携を確立、展開します。

- 第1回 North American Japanese Cultural Conference（仮訳「北米日本文化カンファレンス」）2024年6月 於 ポートランド
- 第1回 Great Gardens of the World Leadership Forum（仮訳「世界庭園リーダーシップ・フォーラム」）2026年7月 於 ポートランド

ポートランド日本庭園催行の日本トラベルツアーで、細川護熙元首相のアートスタジオを訪問

インターナショナル・トラベルツアー

国際フォーラムでは、世界各地にある日本庭園や日本の文化芸術を日本国外から対照的に見て体験する、ポートランド日本庭園独自のプライベート・トラベルツアーを催行します。従来は日本国内のみで 実施していましたが、今後はツアーの対象を日本国外にも広げ、海外の異文化で発達・発展した庭園やそのアートフォームを比較し、世界観を広げるとともに相互理解と交流を深めます。

国際的組織や機関との戦略的な交流

国際フォーラムは、学識経験者、専門家、職人、アーティストのグローバルレベルのネットワーク構築を促進し、さまざまな問題や事例について議論・意見交換をする場を提供します。この「ラウンドテーブル」での意見交換は、地元ポートランドにとどまらず世界各地で行われる他、バーチャル技術を用いて世界各地を結びます。

トレーニングセンター

The International Japanese Garden Training Center（以下、トレーニングセンター）は、広い受講者層が日本庭園と造園技術の習得や知識を深める学び舎となることを目的とし、アマチュアからプロの造園従事者までそれぞれのレベルに対応したプログラムを提供します。自然への畏敬の念を育て、異なる背景を持つ受講生が、共に日本文化を知る第一歩を踏み出すプログラムを用意しています。さまざまな日本の伝統文化や庭園芸術の精神性を学ぶことにより、異文化への共感を育てさらなる対話を促進していきます。

このトレーニングセンターは、本格的な庭園技術の習得の場としては日本国外で唯一の機関です。日本庭園従事者に必要とされる庭園文化や芸術の知識の共有に加え、時代に即したアイデアを育むことを目指すとともに、日本庭園という生きた伝統を継承し育成・共有します。造園設計や施工、維持管理に必要な知識と技術を伝授すると同時に、日本庭園芸術やその美学の学び舎として、第一線で活躍する日本庭園従事者を育成します。

従来、日本で庭師になるには、師匠のもとで修行をするという従弟制度が基本ですが、トレーニングセンターでは、座学で習得するという西洋的なアプローチと、実技を通して心身共に学ぶという日本的なアプローチの両方に注目します。

日本では生涯を通じて庭を造り育てるという考え方から、熟練した庭師になるには20年かかると言われます。そこには、永遠に生きる庭を造るには、蓄積した知恵を後世へ継承していかなければならないという重要な意味が含まれます。また、日本庭園の原点は、茶道や華道、書道、俳句、盆栽などの伝統文化の精神に密接に関連し、あらゆるアートフォームの美的センスを養うことが、一人前の庭師として成長するのに必須とされます。

しかしながら、この21世紀にそのような時間がある人は少ないでしょう。そこで、急速に成長するテクノロジーとバーチャル学習という新しいアプローチを駆使し、知識継承の新たな道筋を開発していくことが求められています。トレーニングセンターでは、伝統的な実技から学ぶアプローチに加え多種多様な学習ツールを導入しつつ、日本庭園芸術という総合的なアートフォームを学んでいきます。

2008年以降トレーニングセンターは、多くの学術機関や造園設計および建築関係のシンクタンク、企業、団体、そして著名庭園機関とのパートナーシップを築いてきました。これらのパートナーシップを通じて新しい教育目標と学習方法の形をさらに進化させると同時に、トップレベルのアドバイザーや教授陣を迎えることができました。将来的にはトレーニングセンターの人材資源やネットワークを、日本国内外のパートナー組織や機関のプログラム開発実施のサポートにも生かしていく予定です。

ご寄付のお願い

ジャパン インスティテュートは、より友好的で持続可能な世界を
実現すべく、グローバルリーダーとして文化理解を促進していきます

ポートランド日本庭園財団理事会は、インスティテュートの発足に当座必要となる約5億円の資金を調達することを表明しており、最終的には約30億円の資金調達を目標としています。同資金をもって、下記の事業目的を達成することができます。

サテライトキャンパスの獲得と施設の拡充 約19億円

2022年4月、ジャパン インスティテュートの本部（以下「サテライトキャンパス」）となる敷地と建物を取得しました。数々の新しい企画とその運営は既存の庭園とそのキャンパス（カルチュラル・ビレッジ）内では収まらなくなることが予測され、新たなサテライトキャンパスを拡充する必要があります。既に、現在行われている教育・文化・芸術プログラムの多くが、既存庭園のキャンパス内での運営キャパシティーを超えている現況に鑑み、今後さらにサテライトキャンパスの必要性が高くなるのは明らかです。

サテライトキャンパスには、下記の施設が含まれます 。

- 教育・文化・芸術セミナーやシンポジウム、講座のための教室と付帯施設
- アート・スタジオ、クリエイティブ・ス ペース
- アート・コレクションや書籍閲覧室と保管庫
- 野外の施設として、園芸・造園のための苗圃、盆栽コレクション用温室など、日本庭園施工・管理技術トレーニングのための演習場

新キャンパスはかつて、救世軍が100年以上にわたり所有管理していた若い女性向けのリハビリテーション・センターでした。1914年から1965年に建てられた4つの建物全てにおいて、老朽化が目立つ屋根などのメンテナンス、ADA 法（障害を持つアメリカ人法）に遵守したデザイン、アスベスト除去、電気などの設備の工事、床の張替えなどの改修が必要となってきます。集められた資金は、この改修事業を可能にします。

加えて、インスティテュートの目的を真に達成するためには、ポートランド日本庭園の既存の庭園および施設を、来たる新プログラムに向けて改良していくことも必要になってきます。

企画・開発・運営とコレクション拡大
約5億円

インスティテュート成功の鍵を握るのは、世界レベルの企画・プログラム開発と実施です。そのためにインスティテュートではトップレベルの教授陣、教育カリキュラムと国際交流プログラムの開発、高度な文化・芸術イベントの実現から、IT設備と教材の充実、美術・工芸や盆栽などのコレクションに至るソフト・ハード両面の確保が必須となります。この資金は、新しい国際プログラムの設置および国際パートナーシップとのコラボレーションの実現に運用させていただくとともに、既存のプログラムとコレクション、施設と資産の向上にも充てられます。

新しい施設運営基金の設立
約2億円

インスティテュートと既存のポートランド日本庭園という機関を両立させながら財政的基盤を確保するためには、ポートランド日本庭園財団の基金から得られる年次配当金が重要な要素になります。現在、財団基金が保有する資金に、この200万ドル（約2億円）を追加することで、財団の総資産は800万ドル（約8億円）になり、年間約35万ドル（約3500万円）の配当金を得ることとなり、その運営と活動の安定した継続に充てることができます。

新型コロナウイルス関連、およびその他負債の償還
約4億円(2021年12月時点で目標達成)

新型コロナウイルス感染の世界的大流行により、弊園は多大な経済的損害を被りました。コロナ禍の中、来園者・庭園職員の安全を確保し、組織の経営を持続するために予期せずして負った負債と、コロナ以前の設備投資によって抱えた債務を合わせると多大な額になります。今、インスティテュートの設立と共に、これらの負債に対処しなければ、今後数年間の運営とプログラム開発に支障を来すことになります。この負債を軽減することで、年間100万ドル（約1億円）の新たな運営資金が生まれ、その資金によって既存の日本庭園と新しいインスティテュートを両立させることができます。

注：日本円表示は、2022年1月当時のレートに基づいています

ご寄付に対する顕彰について

ご寄付は、ご希望にあわせて企業や個人のご芳名を冠することができます。

ジャパン インスティテュート サテライトキャンパス

敷地：3.64エーカー（約14,800平方キロメートル）

宿泊施設
ゲストハウス
講堂
管理棟・ワークショップスペース
NW ALEXANDRA AVENUE

BRUTE

PORTLAND JAPANESE GARDEN

JAPAN INSTITUTE